

ハマベアナタカラダニ *Balaustium murorum* の室内発生例

頓宮廉正

要 約

1998年4月, 岡山大学医療技術短期大学部棟6階の実験室内にダニが発生した。ダニは赤色で体長700~900 μ mであった。形態的特徴よりハマベアナタカラダニ *Balaustium murorum* の成ダニと同定した。周りの他の部屋や屋上からはこのダニは発見されず, 発生源は特定されなかった。発生した部屋はビルの6階にあり, 建物以外からの侵入は考えられなかった。

キーワード: ハマベアナタカラダニ, ダニ, 不快害虫, 室内発生例, 岡山市

はじめに

タカラダニは8属20種が日本から報告されている。この類のダニは幼虫期は大部分が節足動物に寄生しているが, 若虫期と成虫期は自由生活をしているダニである。近年このハマベアナタカラダニの発生例が北海道から関西に至る広い地域から報告されている¹⁻⁶⁾。日本では人を刺咬した例は知られていないが, ビルの室内や建物の外壁に出現して不快害虫として問題となっている。このダニの生態については未だ不明な点が多く, その発生源も特定できていない。今回遭遇した室内発生例は外部から侵入した可能性が少ないと考えられる例である。

発 生 例

発生場所は岡山市内の岡山大学医療技術短期大学部棟の最上階である6階の生物系実験室である。この部屋の特徴は窓が一切無く廊下に面して1つのドアがあるだけである。他に外部に通じる穴としては天井に25×25cmの排気口が1ヵ所あり, これが屋上で床面より150cm立ち上がって開口しているのみである。タカラダニは1998年4月中旬頃よりときどき出現していた。4月28日に燐酸緩衝

液を計量した後, 実験台上にそのまま放置していたメスシリンダーの内壁に数十匹の赤いダニが付着してゆっくり動いていたのを確認した。メスシリンダーの置いてあった机上, 壁面, 天井やその他の器具には見あたらなかった。その時の正午の気温は25℃, 湿度は52%であった。それ以降10月になるまで発生はみられなかった。

同定結果および考察

虫体は全体が鮮やかな橙赤色を呈し, ゆっくりと動いていた。ガムクロラールで封入した後, 計測すると体長は700~900 μ mで虫体は若ダニまたは成ダニであった。足および体表面は特徴のある短毛によって被われている。背面の眼の内側後方に1対の体孔(urnullae)をもっている。これらの形態的特徴よりハマベアナタカラダニ *Balaustium murorum* (Hermann) と同定した。

Balaustium sp. による咬症例は既に1963年にアメリカでNewellが報告している⁷⁾。日本では咬症例は未だ報告されていないが, タカラダニの発生例は現在までに北海道から近畿地方に至る広い範囲から知られてきた¹⁻⁶⁾。報告されたものとしては7例ある^{1-3,5,6)}。4例は北海道^{1,3)}から, 1例は東

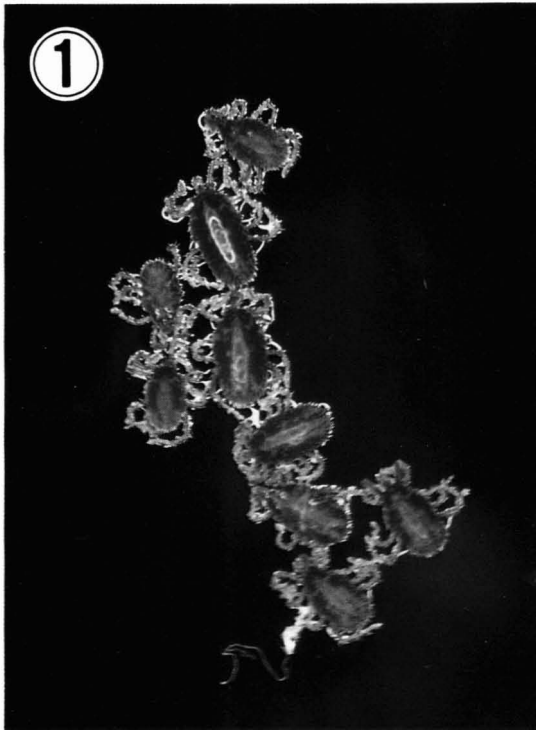


Fig. 1 Live *Balaustium murorum*

Fig. 2 Adult *Balaustium murorum*

京⁶⁾から、1例は松本市²⁾から、1例は岡山市⁵⁾から報告されてきた。松本市²⁾の発生例はビル屋上および外壁に発生しているが、北海道の4例^{1,3)}、東京の1例⁶⁾および岡山市の1発生例⁵⁾はいずれも屋内に発生しているのが特徴である。しかしどの発生例においてもダニの発生源が特定されていない。最近、伊藤・白坂⁶⁾は東京の工場で発生したタカラダニを飼育して産卵孵化させた。その結果より野外での産卵場所がビルの屋上の苔の中やコンクリート構造物の隙間等であると報告している。1995年に報告した岡山大学歯学部棟での発生例⁵⁾においてもビル周辺から侵入した可能性は少ないことが示唆された。今回の室内発生例は窓の無い実験室での発生例であり、唯一侵入する可能性があるとするならば天井にある排気口だけである。しかし屋上にあるその出口は床面より約150cmも直立しておりダニがはい登って排気管を伝って室内に侵入したと考えるのは不自然である。また発生し

た当時、屋上の排気管周辺の床を調査したが苔の付着した部分にもタカラダニは発見されなかった。室内にも発生源と考えられるような場所は発見されなかった。発生した場所が最上階の6階であることや、一時期であることを考えれば伊藤・白坂⁶⁾が報告しているように屋上の苔のあるような場所が発生源と考えるのが最も自然であろう。今後の防除対策上からもこのダニの発生源を特定することが急務となっている。

文 献

- 1) 服部睦作：タカラダニ科成ダニの家屋内発生例。ダニ類研究会会報，6号 p.12，1980。
- 2) 内川公人：松本地方における不快虫の新顔ハマベアナタカラダニについて。衛生動物，37：171，1986。
- 3) 服部睦作，高橋健一：アナタカラダニの屋内発生例。衛生動物，37：169，1986。
- 4) 芝 実：タカラダニの生態。生活と環境，34：39-45，

- 1989.
- 5) Tongu, Y.: Occurrence of *Balaustium murorum* (Hermann, 1804) in a room. Jpn. J. Sanit. Zool., 46 : 299-300, 1995.
- 6) 伊藤弘文, 白坂昭子: ビル屋上に発生するタカラダニの産卵状況と防除事例. 衛生動物, 49 : 149, 1998.
- 7) Newell, I.M.: Feeding habits in the genus *Balaustium* (Acarina, Erythraeidae), with special reference to attacks on man. J. Parasitol., 49 : 498-502, 1963.

(Brief note)

Occurrence of *Balaustium murorum* (Hermann, 1804) in a room in Okayama City, 1998

Yasumasa TONGU

Abstract

A number of red mites suddenly occurred in a laboratory of School of Health Sciences, Okayama University on 28th April 1998. The laboratory was on the top floor of a 6-story building. The mites crept on the inside surface of a graduated glass cylinder on the laboratory table. From morphological characteristics, the mites were identified as adult *Balaustium murorum*. However, the origin of the mites was not specified in the present case.

Key words : *Balaustium murorum*, mite, nuisance, Okayama City

School of Health Sciences, Okayama University